

5. 上町台地の信仰と民俗芸能

<上町台地を訪れた人々>

○正月に訪れた芸能者—伊勢神楽・獅子舞・万歳

- ・正月に訪れる芸能者は、玄関に紋幕を張っているときだけにやってきた（法円坂）
- ・「おことわり」というと家の中には入ってこなかった（上本町六丁目）

伊勢神楽—法円坂、上汐一丁目、大江の各地区に来ていた。

- ・太夫と才蔵。片方が太鼓を持っていた（法円坂）
- ・神楽講、伊勢講が2～3組、入れ替わり立ち替わり来ていた（法円坂）
- ・2～3人で来ていた（上汐一丁目）
- ・2人で来ていた（大江）

獅子舞—上町台地の各地域に来ていたようである。

- ・少なくとも3人で来ていた（獅子・囃子・太鼓）（法円坂）
- ・神社と関係なしで商売で来ていた（法円坂）
- ・玉造稲荷神社で出していた（玉造本町）
- ・万歳と一緒に来ていた（上汐一丁目）
- ・「キクダユウ」という人物が仕切っていたように思う。昭和30年代くらいまでか（大江）

万歳—上町台地の各地域に来ていたことがわかった。

- ・和服姿で年寄りの人だった（法円坂）
- ・伊勢か三河かはわからないが、三が日に来ていた（谷町六丁目）
- ・太夫と才蔵で片方が太鼓を持っていた（上本町六丁目）
- ・黒門市場には最近まで万歳が来ていた（大江）

伊勢神楽：今回の聞き取り調査で対象とした伊勢神楽は、「伊勢大神楽」とも呼ばれるもので、獅子舞と放下芸（曲芸）とで構成される神事芸能である。演目は獅子舞の舞と放下芸を合わせて十六曲あり、これらの曲目を演ずることを総舞（総舞わし）という。

伊勢大神楽は、各地域の行事とさまざまに結びついている。訪れていた組が廃業になっても、その地域での年中行事として伊勢大神楽の存続をはかるところもある。

今回の調査地域では、どの組が廻ってきたのか、あるいは、地域の行事と結びついたものだったのかはわからなかった。

万歳：万歳の代表的なものとして大和万歳、三河万歳、尾張万歳がある。万歳は主役の太夫（徳若）とそれに従う才蔵（才若）の二人連れで、太夫は扇、才蔵は鼓を持つ。太夫がめでたい歌を歌いながら扇をひろげて舞い、才蔵は鼓を打ってその伴奏をし、合間に入

れる滑稽を受け持つ。大阪には、大和万歳が回っていた。大和万歳は宮中や京都所司代に参入した由緒あるもので、明治時代までは新年に京阪の家々を訪れていたが、戦後廃絶した。

○日常的に訪れていた商売人

- ・シガラキヤキ屋（蒸し器で栗餅を蒸す）
- ・飴屋（シンコ細工）
- ・紙芝居（学校の先生は見に行くことをあまりすすめなかった）
- ・富山の薬売り
- ・鯛売り
- ・盆栽
- ・笹（イカキ）屋
- ・団子屋、すし屋
- ・ポン菓子屋さん

<上町台地の伝説・聖地>

天神橋付近のお稲荷さん：天神橋の橋詰めのところに醤油問屋があり、そこはお稲荷さんを盛んに信仰していた（夏のお稲荷の日だったように思う）。

法円坂の巳さん：法円坂の長屋のところに祠があった。

法円坂の胞衣塚：法円坂・寺山住宅のところに豊臣秀頼の胞衣塚があった。祠があり、林のようになっていたが、現在は玉造稲荷神社に移転している。

真田山のお地藏さん：家の前の地藏はその家のものである。他に町内には地藏が4つある。

空堀のイチョウの木：イチョウの木に注連縄を張っていた場所があったが、現在は無い。

谷町八丁目のクスノキ：聞き取り調査では話が出てこなかったが、話者の自宅近所には大きなクスノキがあり、「楠木大神」として最もよく知られた路傍樹がある。

<さまざまな講>

上町台地の各地区で大峯講に多くの人に参加していたことがわかった。東高麗橋の地域には、大峯講が2つあったということである。講は大峯講の他に、伊勢講もあったらしいが、「祖母が入っていたかもしれない」ということで、詳しいことはわからなかった。また、四天王寺に近い地区では、庚申講が盛んだったこともわかった。

（和住 香織）